

## 大学の世界展開力強化事業 事後評価結果の総括

平成29年3月21日

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

大学の世界展開力強化事業について、5年間の補助期間を終了した採択大学（25件）について、5段階評価（S～D）により事後評価を実施した。

採択大学の評価結果は、S評価（「目的は十分に実現された」）が4件（全体のうち16%、タイプA2件、タイプB2件）、A評価（「目的は概ね実現された」）が18件（同72%、タイプA10件、タイプB8件（タイプBはA-3件を含む）、B評価（「目的はある程度実現された」）が3件（同12%、タイプA1件、タイプB2件）であった。なお、本評価においては、A評価が標準的な評価である。

この結果を踏まえ、採択大学は、当初の計画に沿って目的を概ね実現し、期待された成果を上げたと評価できる。

事後評価を通じて事業全体に共通して見られる、主な傾向や結果は以下のとおりである。

- 交流プログラムの枠組みについては、全体的には、ダブル・ディグリー・プログラムの実現や、長期プログラムとサマープログラム等の短期プログラムとを連携させる等、将来にわたってグローバルに活躍できる人材の育成に資する質の高い交流プログラムが設定された。一方で、外部・内部の要因から十分な枠組みの形成や維持が困難となった事業もあり、我が国の大学の教育研究活動の発展や国際競争力の強化につながるような先導的なプログラムの実現について、より一層の努力が期待される。
- 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成については、国際公募の教員採用、国際評価のためのアドバイザーボードの活用、全学生に修学・研究計画書を提出させることできめ細やかな指導を行う研究教育の質担保の取組など、様々な工夫がなされている。また、多くの事業で留学生と受入大学の学生、あるいは派遣学生と派遣先の学生との協働教育プログラム、フィールドワーク、トークイベントなどが幅広く行われており、参加学生にとって有意義なプログラムの作成について積極的に取り組んでいる。
- 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備については、受入学生に対する学期前の日本語サマースクールの開催、受入学生専門職員の配置や、派遣学生に対する留学期間前後も含めた学生同士による支援や学び合い、学習中の支援システムのみならず、キャリア支援まで含めた対応など、学生への円滑かつ適切なサポートが持続的に行われる環境が発展しつつある。
- 事業の実施に伴う学生の国際化と情報の公開、成果の普及については、本プログラムを通して、ターム制の全学展開や全学の国際化に係る意思決定体制が整備され、事務体制も含めて一層の整備が行われている。また成果の普及としては、シンポジウムの開催、学会等の機会を捉えての広報活動、ホームページ公開などのほか、他の大学等に所属している学生が参加可能とする事業がいくつか見受けられることは大いに推進すべき点である。
- 事業開始から補助期間終了時点までに、25事業において交流した学生数は、派遣された日本人学生が4,820名（うちタイプA1,687名、タイプB3,133名）、受け入れた外国人留学生が3,604名（うちタイプA1,867名、タイプB1,737名）であり、達成目標（派遣3,510名（それぞれ1,369名、2,141名）及び受入3,175名（それぞれ1,516名、1,659名））を大きく上回る結果となっている。

- 今後の展開及び我が国のグローバル大学教育の展開力の強化に対する貢献については、多くの事業で更なる事業計画や予算措置が講じられ、本事業の成果を活かした活動が行われることとなっており、今後の我が国のグローバル展開力の強化に貢献することが期待される。

本事業は、1. 我が国の大学教育のグローバル展開力の強化とともに、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行うアジア・米国・欧州等の大学との国際教育連携の取組を推進する、2. 採択大学で構築された大学間交流プログラムの補助期間終了後の持続的な展開を促進する、3. 採択大学の取組が広く国民の理解を得られるよう促進していく、という点で、非常に大きな意義のあるものであった。5年間という限られた補助期間において、個々の大学のグローバル展開力の強化に対応した体制整備に多くの困難や試行錯誤を伴ったことは事実であるが、それらを経験として積み上げ、そこから新たな知見を得て、上述のとおり大きな成果を上げた事は、特筆に値する。

今後、これらの大学がこれまでの取組を継続するのみならず、世界の大学との更なるネットワークの構築や国内外への情報発信等を進めることで、我が国のグローバルに活躍できる人材の登用、養成に資することが期待される。

## 大学の世界展開力強化事業(平成23年度採択)事後評価結果一覧

タイプ	大学名	設置区分	構想名	総括評価	評語
A-I	東京大学	国立	公共政策・国際関係分野における BESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム	S	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
	東京工業大学	国立	日中韓先進科学技術大学教育環	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	一橋大学	国立	アジア・ビジネスリーダー・プログラム	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	政策研究大学院大学	国立	北東アジア地域における政策研究コンソーシアム	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	名古屋大学	国立	東アジア「ユス・コムーネ」(共通法)形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	○名古屋大学、東北大学	国立	持続的社会に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	神戸大学	国立	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
	岡山大学	国立	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	九州大学	国立	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
A-II	立命館大学	私立	東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス	S	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
	京都大学	国立	強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成ー災害復興の経験を踏まえてー	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	○大阪大学、広島大学、長崎大学、名桜大学	国立	「アジア平和=人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	早稲田大学	私立	アジア地域統合のための東アジア大学院(EAUI)拠点形成構想	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。

タイプ	大学名	設置区分	構想名	総括評価	評語
B-I	東京大学	国立	巨大複雑システム統括エンジニア育成に向けた国際協働教育プログラムの創出	A <sup>-</sup>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	東京工業大学	国立	グローバル理工系リーダー養成協働ネットワーク	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	名古屋大学	国立	修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム	B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
	国際教養大学	公立	「日米協働課題解決型プロジェクト科目」の導入と「日米教員協働プラットフォーム」構築	B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
	慶應義塾大学	私立	グローバルイノベーションデザイン・プログラム	S	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
	早稲田大学	私立	早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	立命館アジア太平洋大学	私立	APU-SEUグローバル協働教育プログラム—入学前教育から大学教養・専門教育まで	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
B-II	筑波大学	国立	人社系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム	A <sup>-</sup>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	千葉大学	国立	大陸間デザイン教育プログラム (CODE Program)	S	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
	広島大学	国立	国際大学間コンソーシアムINUを活用した、平和・環境分野における協働教育	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	慶應義塾大学	私立	グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築	A <sup>-</sup>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
	関西学院大学	私立	日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。

(参考)総括評価の基準

評価	評語
S	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
A※	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
C	取組状況、目標の達成状況が事業計画を下回っており、事業目的はあまり実現されていない。
D	取組状況、目標の達成状況が事業計画を大きく下回っており、事業目的はほとんど実現されていない。

※A評価のうち実績が事業計画を下回っているものの、事業目的は実現したと判断されるものについてA<sup>-</sup>とすることが出来る。